

高い完成度と精神性

第11回「村野藤吾賞」

榎文彦氏の風の丘葬祭場に



榎文彦氏

再出発となった第11回「村野藤吾賞」に榎文彦氏が決まった。受賞作品は「風の丘葬祭場」。

「村野藤吾賞」は10回をもって会員制による新たな運営組織「村野藤吾記念会」となり、代表に池原義郎氏が就任した。「世に大きな感銘を与えた高い水準の作品」が対象で、今回は、いわばその第1回となる。会員および選考委員から推薦された10作品の中から選ば

れた。

池原氏は選評で「皿状に広がる風の丘、昔の人たちが伝える遠い記憶の形象のような古墳群、そこに流れる風を透き通った微かな音にする造形の参加など、すべて間然することのなく神経が研ぎすまされ、訪れる人々に深い感銘を与えているのを見ることができた」とし、作品は「静謐さ・厳肅さ・そしてやわらかな閑寂さを見事にうたい上げた秀作」と高く評価。とくに「新生・村野藤吾賞のはじめのものとして、今世紀の日本の建築界の掉尾（とうび）をかざる作品を得たことを喜びたい」としている。

今回の選考委員は、池原

義郎、高橋誠一、伊東豊雄、藤森照信の各氏。授賞式は5月15日、宝塚市庁舎で。同日、宝塚ホテルでセミナーも開催する。基調講演は長谷川堯氏、セミナーは出江寛氏など。

候補10作品は、次の通り。榎文彦「風の丘葬祭場」、斉藤裕「百日紅居」、山本良介「名月院 草庵 月笑軒」、神谷五男「あぐり館 益子町総合営農指導拠点施設」、戸尾任宏「相模原博物館」、シーザー・ペリ「NTT新宿本社ビル」、渡辺明「二期倶楽部 Part II・Part II」、多田善昭「門入りの郷 門入りブリッジ・椿の城」、高橋誠一「熊本パークドーム」、谷口吉生「豊田市美術館」。

3/23 (月)